

日本映画放送株式会社 第78番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和3年8月23日（火）
2. 開催方式：新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令中につき、web会議ツールを用いて実施（当日欠席者は意見文書を提出）。

3. 委員（順不同・敬称略） 出席：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・神田 由築・砂川 浩慶・
鳥居 美砂・西 正・宮崎 美紀子・山川 鉄郎・

文書提出：田保橋 淳

放送事業者：取締役相談役	杉田 成道	代表取締役社長	石原 隆
常務執行役員	金田 耕司	執行役員	佐藤 信彦
執行役員編成制作局長	宮川 朋之	編成部部長	小川 英洋
制作部長	秋永 全徳	編成部	三瓶 祐毅
編成部	三品 貴志		
番審担当	堤 靖芳	澤 尚志	清水 明(記) 後藤 健(記)

4. 議題

- (1) 審議事項：日本映画専門チャンネル「日曜邦画劇場 1000 回」
「日曜邦画劇場 1000 回記念特別番組」
「日曜邦画劇場 第1000 回 『人情紙風船』〈4K デジタル修復版〉」
- (2) 報告事項：日本映画専門チャンネル・時代劇専門チャンネル 共同企画
「7/28(なにわの日)特集・関西ジャニーズ」

5. 議題（1）

日本映画専門チャンネルの人気番組である「日曜邦画劇場」が、本年7月4日で、放送開始から20年、第1000回を迎えることができました。それにともない1000回記念放送として「特別番組」を制作し、今となっては大変貴重な映画出演者や監督へのインタビューに加え、番組支配人（軽部真一フジテレビアナウンサー）へのインタビューなども盛り込み、「日曜邦画劇場」20年の歴史を振り返りました。また、第1000回の放送には、日本映画史にその名を刻む伝説的天才監督・山中貞雄の遺作『人情紙風船』〈4K デジタル修復版〉を編成し、昭和初期の名作を現代技術で蘇らせるとともに、本作の大ファンであるミュージシャン・山下達郎氏を招いて解説を付けました。今回の番組審議会では、「日曜邦画劇場 1000 回」を記念した番組、編成について、以下のポイントを中心にご審議いただきました。

【審議のポイント】

1000 回記念特別企画として、①「日曜邦画劇場」のこれまでの歩みを振り返る番組、②『人情紙風船』という題材の編成、③山下達郎をゲストに迎えての解説番組、という構成は、視聴者にとって「日曜邦画劇場」の個性と軌跡が魅力的に伝わる内容になっていたか。

6. 議題（１）審議内容 ※文中敬称略

- ・大量の名シーンで構成された「特別番組」は、「日曜邦画劇場」の個性と軌跡を魅力的に伝えるという目的を、高いレベルで十分に果たしている。
- ・『人情紙風船』は何度となく見てきたが、4K 修復版の画面と音声のクリアさには驚いた。公開時のプリント以上の画質だろう。
- ・『人情紙風船』はオペラと同じように、時代背景や筋立てを予め頭に入れてから臨むべき映画ではないだろうか。価値がわかっていない視聴者向けに、そのあたりもう一工夫あれば、と思った。
- ・1000 回記念の主演は映画とその出演者であるはずだが、身内の「お疲れ様番組」に思えた。視聴者は出演者のインタビューをもっと観たいのではないか。
- ・邦画一筋で 1000 回も続けられたことは、視聴者に支持され続けてきたという意味でも、大変なことだと思う。ただ、『人情紙風船』は、あんなマニアックな映画をなぜ記念すべき 1000 回目に放送するのか理解に苦しむ。
- ・「特別番組」は昔見て好きだった作品、忘れていた名作、気になっていたのに見逃していた作品が次々と出てきて、無性に映画が見たくなった。しかし 1000 回目の山下達郎の静止画解説は違和感だらけであり、もっと演出的に工夫出来ただろう。
- ・山下達郎とのトークは作品・監督へのオマージュ、知識の豊かさが、作品をより深めているし、今回に関しては山下達郎抜きに『人情紙風船』という企画が成立しなかっただろう。
- ・インタビュー番組は数が多ければ多いほど資料的価値が高まるが、「日曜邦画劇場」の解説は出演俳優も多く、亡くなった方もあって、貴重な映像資料である。
- ・『人情紙風船』は浄瑠璃や歌舞伎といった日本固有の文化と、映画という世界文化の出会の中で生まれた「日本映画」の絶対に見るべき「必修科目」であり、久しぶりに見てその思いを改めて強くした。
- ・「特別番組」はただ映画を放送するだけではなく、映画愛にあふれた「劇場支配人」軽部真一アナウンサーの解説、監督や俳優らゲストとのトークが付加価値を高めており、そんな軽部支配人の語りの魅力が改めて伝わってくる。

これに対して弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・「記念番組」では、ゲストトークの権利処理が難しかったなどの理由でバラエティーパートが多くなってしまい、身内に寄りすぎた印象を与えてしまったことは大きな反省点だ。より視聴者目線に立って、今後も番組づくりを進めていきたい。
- ・山下達郎のインタビューを静止画で放送することについては社内でも賛否の分かれたところで大いに悩んだが、静止画という点を差し引いても、山下達郎の『人情紙風船』に対する想いや分析は秀でるものがあると考えた。
- ・今後の番組作りについての具体的な意見が多く、素晴らしい番組審議会だった。
- ・『人情紙風船』は演出を志す者は必ず通らなければならない登竜門であり、表現を新たなものにしようとする時、必ずある運動体がバックグラウンドにあるということをつくづくと思った。

7. 議題（2）報告事項

日本映画専門チャンネル・時代劇専門チャンネル 共同企画

「7/28(なにわの日)特集・関西ジャニーズ」

2025 年開催予定の大阪・関西万博へ向け、盛り上がりを見せている” 関西ジャニーズ” 。大活躍のジャニーズ WEST、King&Prince、Snow Man や、勢いが止まらない関西ジャニーズ Jr. のなにわ男子、A え！ group、Lil かんさいなどのメンバーが過去に出演した映画を、関西ジャニーズと縁深い “7.28(なにわ)の日” を皮切りに、日本映画専門チャンネル・時代劇専門チャンネルで総力特集した。若い世代に両チャンネルを知っていただく良い機会となった。

8. 連絡事項

次回番組審議委員会は、11 月 16 日(火)16 時より開催予定。